

上水高等学校 令和7年度 教科 地理歴史

科目 世界史探究

教科： 地理歴史 科目： 世界史探究 単位数： 4 単位

対象学年組：第 2 年次

使用教科書：（ 山川出版社 詳説世界史 ）

教科 地理歴史 の目標： 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

- 【知識及び技能】 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用する。
- 【思考力、判断力、表現力等】 歴史的・地理的事象から課題を見出し、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 歴史的・地理的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、国際社会に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たし、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究 の目標： 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	世界史へのまなざし ①人類の誕生を地球46億年の歴史のなかに位置づけて考察する。 ②自然環境と人類の関わりの概要を理解する。 ③人類の進化の過程の概要を理解する。 ①人類の誕生を地球46億年の歴史のなかに位置づけて考察する。 ②自然環境と人類の関わりの概要を理解する。 ③人類の進化の過程の概要を理解する。	・指導事項 生物や人類はどれくらいの時間をかけて進化してきたのだろうか。私たちの日常生活は世界の歴史とどのような関連があるのだろうか、などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 自然環境と人類の関わり、および人類の進化の過程の概要を理解している。 今日の社会で一般的とされていることの多くが歴史的に形成されたもので、地域や時代によっては一般的ではないことを理解している。 【思考・判断・表現】 長期にわたる地球気温の変化を示す統計資料や「地球カレンダー」などの資料をもとに、地球の自然環境が直面している危機およびその克服へ向けた取り組みを、多面的・多角的に考察し表現している。 日常生活のなかに世界史とつながっているモノを見出し、自分自身と世界のつながりを多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然環境と人類の進化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	第1章 文明の成立と古代文明の特質	・指導事項 古代文明にはどのような共通点、相違点があるだろうか。オリエントの諸文明には、どのような特徴があるだろうか、などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明や諸地域の歴史的特質について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○		17

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 ①中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解する。 ②騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ③遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解する。 ④オアシス民と遊牧民の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ①新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。 ②漢の支配体制の変遷を理解する。 ③統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。 ①遊牧民族の動きと魏晋南北朝の動乱との関係について理解する。 ②魏晋南北朝時代に仏教や道教が力を持つようになった要因や背景を、多面的・多角的に考察し表現する。 ③魏晋南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。 ①唐の勢力圏の広がりを理解する。 ②唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。 ④安史の乱前後の唐の制度や社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。 ⑥ソグド人の中央ユーラシアや東アジアにおける役割について理解する。	・指導事項 東アジアと中央ユーラシアは歴史的にどのような特徴をもつようになっただろうか。東アジアで形成された中華文明には、どのような特徴があるだろうか。中華王朝とその他の東アジアの国家にはどのような特徴があるだろうか。などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明や諸地域の歴史的特質について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。				17
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 ①仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。 ②南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとでの仏教の発展について理解する。 ③クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ④「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。 ①グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。 ②8～10世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解する。 ③ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ①東南アジアの風土について他のアジアや日本と比較したうえで理解する。 ②東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東南アジアにおける国家形成の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	・指導事項 南アジアの社会、宗教、文化・思想にはどのような特徴があるだろうか。東南アジアの社会、宗教、文化・思想にはどのような特徴があるだろうか。などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 インド古典文化の黄金期とされるグプタ朝において、文化がどのように展開したのかを理解している。 東南アジアの大陸部と諸島部において、どのように国家が形成されたのかを理解している。 【思考・判断・表現】 インド洋航海図（地図）や『エリュトラー海案内記』などの資料をもとに、インド洋交易の広がりを多面的・多角的に考察し表現している。 それまで仏教やジャイナ教が盛んだったことをふまえたうえで、ヒンドゥー教が社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現している。 東南アジアの風土や地形をふまえたうえで、南アジアや中国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 南アジアで生まれた諸宗教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 インド古典文化とヒンドゥー教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 東南アジアの諸国家について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学期	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 ①アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。 ②バルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。 ③バルティアとササン朝が東西の文明の間で担った役割を多面的・多角的に考察し表現する。 ①ボリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ②スパルタが軍国主義をしいた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ④ギリシアの諸ボリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ①ローマ共和政の特徴について、ギリシア民主政と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ②地中海における領土拡大がローマ共和政に与えた影響を理解する。 ③ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。 ④「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。 ⑤ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ローマ帝国の文化的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ①キリスト教の成立の経緯を理解している。 ②ローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。	・指導事項 西アジアと地中海周辺は歴史的にどのような特質をもつようになったのだろうか。ローマ文明・イラン文明の社会、国家、宗教、文化にはどのような特徴があるのだろうか。などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 アケメネス朝、バルティア、ササン朝といったイラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解している。 アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 ローマがどのような経緯で都市国家から帝国にいったのか、またローマ人の文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 勢力を拡大させていたキリスト教をローマ帝国がどのように利用しようとしたのかを理解している。 【思考・判断・表現】 ササン朝と法隆寺の「獅子狩」図案などの資料をもとに、イラン文明が世界の諸地域に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 オストラコンなどの考古学的資料や「ペリクレスの演説」などの資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 モザイク画などの図像資料や「神皇アウグストゥス業績録」などの資料をもとに、ローマが地中海世界を統一し、それを維持できた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 当時の地中海世界の状況をふまえたうえで、キリスト教が急速に広がった理由を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 イラン文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 古代ギリシアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ①アラブ＝ムスリム軍による大征服の展開を理解する。 ②ウマイヤ朝の領域的な広がりとその支配の特徴を理解する。 ③アッバース朝成立の背景とその統治の特徴を理解する。 ④イスラーム文化の成立の経緯を理解し、またその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ①ヨーロッパの自然条件と大規模な人の移動との関係について理解する。 ②ビザンツ帝国の繁栄について、同時期の西ヨーロッパと比較したうえで理解する。 ③ローマ教会とフランク王国の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ④カールの戴冠が世界の歴史において持つ意義について理解する。 ⑤ノルマン人が西ヨーロッパ世界において果たした歴史的役割について理解する。 ⑥西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みについて理解する。	・指導事項 などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 イスラーム教がどのように成立し、短期間で勢力を拡大していったのかを理解している。 西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを理解している。 【思考・判断・表現】 イスラーム政権の拡大を示す地図やアラバスクなどの図像資料などをもとに、イスラーム教の成立が西アジアや北アフリカの社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 荘園の構造を示す概念図や『ガルベール＝ド＝ブリュージュの日記』などの資料をもとに、西ヨーロッパに成立した封建社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 イスラーム教の成立と拡大について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだして、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ヨーロッパ世界の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	15
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ①イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。 ②南アジアにおいてイスラーム教が受け入れられていった経緯を理解している。 ③東南アジアにおいてイスラーム化が進んだ背景について考察し表現している。 ④アフリカにおいてイスラーム化が進んだ要因を考察し表現している。 ①トルコ人の進出が西アジアにもたらした変化について考察し表現している。 ②十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察し表現している。 ③マムルーク朝のもとでのカイロの繁栄がどのように実現したのか理解している。 ④イベリア半島におけるイスラーム勢力の興亡について理解している。	・指導事項 イスラームはどのように成立し、広がっていったのだろうか。イスラームは、どのような地域に広がったのだろうか。などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 イスラーム教がどのように成立し、短期間で勢力を拡大していったのかを理解している。 西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを理解している。 【思考・判断・表現】 イスラーム政権の拡大を示す地図やアラバスクなどの図像資料などをもとに、イスラーム教の成立が西アジアや北アフリカの社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 荘園の構造を示す概念図や『ガルベール＝ド＝ブリュージュの日記』などの資料をもとに、西ヨーロッパに成立した封建社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 イスラーム教の成立と拡大について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだして、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ヨーロッパ世界の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	15

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 ①中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。 ②十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③西ヨーロッパで商業が盛んになった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ④中世の都市が獲得した政治的地位や、そこでの人々の暮らしについて理解する。 ①ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ビザンツ文化が果たした世界史的な意義について理解する。 ③スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。 ①封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ③各国における、身分制議会の成立と王権の伸張の関係を理解する。 ④百年戦争によるイギリスとフランスの変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤スペインで国王による中央集権化が早く進んだのはなぜか理解する。 ⑥神聖ローマ帝国で中央集権が進まなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ①中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。 ②西ヨーロッパにおける大学の成立過程を理解する。 ③中世の西ヨーロッパの美術や文学と、その時代の社会との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	・指導事項 ヨーロッパの封建社会はどのように変化していったのだろうか。などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・理解】 中世の西ヨーロッパで発達した商業の活動状況とその特徴について、従来との比較をふまえて理解している。 ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人および非スラヴ人の動向について理解している。 封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動きを理解している。 【思考・判断・表現】 中世都市の景観を示す図像資料や当時の交通路を示す地図をもとに、十字軍が西ヨーロッパに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 西ヨーロッパやイスラーム勢力との関係をふまえたうえで、ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現している。 大憲章や金印勅書などの資料をもとに、中央集権国家の形成に向けた各国の動きの共通点と相違点を多面的・多角的に考察し表現している。 大聖堂の写真や大学の講義風景を描いた図像資料などをもとに、中世の西ヨーロッパの文化的な特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中世の西ヨーロッパについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 東ヨーロッパ世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 西ヨーロッパ世界の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 中世の西ヨーロッパの文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ①10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ②宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。 ④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ①モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。 ③モンゴル帝国時代の東西交流の新しさを多面的・多角的に考察し表現する。 ④モンゴル帝国解体の要因を理解する。 ⑤ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し表現する。	・指導事項 モンゴル帝国は、ユーラシアにどのような影響を及ぼしたのだろうか。などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・理解】 10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。 モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。 【思考・判断・表現】 「清明上河図」などの図像資料や荘祿『鶏肋編』などの資料をもとに、宋代の経済発展が社会に引き起こした変化を多面的・多角的に考察し表現している。 モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 10～12世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	第9章 大交易・大交流の時代 ①モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解する。 ②明朝初期の国内統治の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③明との朝貢関係が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④世界的な商業の発展が明の朝貢体制におよぼした影響を理解する。 ⑤明代後期の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥16世紀の東南アジアで台頭した新興勢力の共通点を理解する。 ①ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解する。 ③中南米の先住民が短期間でスペイン人に征服された要因を理解する。 ④16世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察し表現する。	・指導事項 交易の拡大は世界の諸地域をどのように変えていったのだろうか。ヨーロッパの海外進出は、世界の諸地域にどのような影響をもたらしたのだろうか。などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・理解】 「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。 モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。 【思考・判断・表現】 「南蛮屏風」などの図像資料や鄭曉『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。 ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	9

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 ①オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。 ③オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ①ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ①清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ③漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。	・指導事項 西アジアと地中海周辺は歴史的にどのような特質をもつようになったらうか。などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・理解】 オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。 ムガル帝国において非イスラーム教徒に対する施策がどのように変化したのかを理解している。 清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。 【思考・判断・表現】 オスマン帝国とサファヴィー朝を比較したうえで、それぞれの特徴や両者の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 ムガル帝国時代の細密画などの画像資料や領域を示す地図などをもとに、ムガル帝国の興隆と衰退が南アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 皇帝を描いた画像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 オスマン帝国とサファヴィー朝について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ムガル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 ①ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 ②ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③多方面におよぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。 ①それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。 ②カルヴァンの教えの特徴やイギリス国教会の成立の意義を理解する。 ③カトリック改革が持つ世界的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ①主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ②16世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。 ③アウクスブルクの和議とウェストファリア条約の異なる点を理解する。 ①17世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②17世紀における2つのイギリスの革命について、国際的な状況もふまえて理解する。 ③近世フランスの強みと課題を多面的・多角的に考察し表現する。 ④イギリスとフランスの覇権争いがグローバルな戦いになった背景を理解する。 ①主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置を理解する。 ②ロシアが主権国家体制に参入していった経緯を理解する。 ③プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。 ④啓蒙専制主義の特徴を理解する。	・指導事項 ルネサンスはヨーロッパの社会をどのように変えたのだろうか。ヨーロッパの国家体制はどのように変化したのだろうか。17～18世紀のヨーロッパの国家と文化にはどのような関係があるのだろうか。などの問いを設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・理解】 ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。 新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。 主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。 オランダ・イギリス・フランスがそれぞれ持った有利な点や課題を理解している。 北欧・東欧の各国の関係の推移や、それぞれにおける改革の内容を理解している。 科学革命と呼ばれる一連の変化がどのような背景で起こったのかを理解している。 【思考・判断・表現】 美術作品の画像などの資料をもとに、ルネサンスの新しいさと古さを多面的・多角的に考察し表現している。 宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 主権国家体制の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 オランダ・イギリス・フランスの覇権争いについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ルネサンスについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 オランダ・イギリス・フランスの覇権争いについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	第1部 第2部のまとめ ①西アジアの身分・階級・王権・宗教に関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする。 ②西アジアにおいて多様な身分・階級が生まれた背景および宗教と王権の関係について考察する。 ①13世紀におこなわれていた交易に関する資料から、情報を読み取ったりまとめたりする。 ②13世紀において諸地域でおこなわれていた交易の特徴について考察する。	・指導事項 科目のまとめとして、これまでの学習で習った項目の中からグループで主題設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。 ・教材：教科書等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付けている。 資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的性質を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明や諸地域の歴史的性質について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 諸地域の交流・再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	2
							合計
							156